

2018Japan National Team Report ” コーチ ”



| | |
|-------|---|
| 報告者氏名 | 前田 博志 |
| 大会名 | 2018 Optimist Asian and Oceanian Championship |
| 開催地 | Ngwe Saung Yacht Club & Resort, Myanmar |
| 大会期間 | 2018/11/10 ~18 |

- 帰国後1ヶ月以内に、JODA チームでまとめた上、海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
 1. このレポートを補足する資料として必要です(文中に貼り付けて下さい)
 2. 他国OP艇を接近して撮影する際には、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい

| | | | | | |
|----------------|---------|--|--|--|--|
| チャーター艇 メーカー | fareast | | | | |
|----------------|---------|--|--|--|--|

| | |
|--------------------|--|
| 気象について | 暑いと聞いていましたが、前半は雨がよく降り少し涼めでした。 気温が上がらない影響かなかなかシーブリーズが入りませんでした。 |
| 海面(湖面)の特徴や 風の傾向 | 前半のレースは陸風で、風が弱く平水面でした。陸風の特徴で、よく風がふれました。 後半のレースではシーブリーズが入りましたが、風は軽風でした。やっとデッキに出るくらいまでしか風は上がりませんでした。海風はあまり左右での有利不利はありませんでした。潮は強かったです。 |
| 帆走指示書内容で特記 事項 | 特記ありませんでした。 |
| コーチボートについて | 初日は中国とシェアをしました。コーチボートあたりの人数が多いということで、2日目からはコーチボートの配艇が変更され日本チームのみになりました。 |

以下、日本チームより上位の選手、国について記入して下さい

| | |
|--------------|---|
| 選手の特徴、体格 | 上位の選手は比較的小柄でした。 |
| 機装品について | 上位のチームはスパーを持参していた。 |
| セッティング等 | 特別なセッティングをしているようには見えませんでした。 ボートスピードで日本選手が負けているようにも思えなかったので、特にそのように感じました。 |
| 海上での練習方法 | 海外の選手はバラバラと独自でセーリングをしているようでした。 日本チームは、10人を5人ずつの2グループに分けてセーリング練習を行いました。 アジアチームを結成した時から、海上に出たら選手だけでもすぐに練習するように指導していましたので、そこは日本チームの方が良かったように思います。 |
| セーリング技術 | ボートスピードの差はなかったように思います。 タックは上位チームの方が上手でした。タックの完了が速く、スピードの維持ができていた。チームレースなどではタック完了が速いことはメリットがあり、日本チームはタックにもう少し改善が必要だと思います。 中国は帆を使った特別なタックをしていましたが、OP以降のセーリングでは通用しない技術でしたので、これは選手にはまねる必要はないと説明しました。 |
| 戦術、戦略など | 上位選手はセオリーを守ったコース引きができていたと思います。 日本チームはスタートから出遅れることが多かったように思います。 |
| 日本選手が劣っていること | スタートの精度。 スタートが悪すぎたので、それ以外に比較ができません。 |
| 日本選手が勝っていること | チームワーク。みんなで仲良く、チームとして協力ができた。 素直。コーチの話をよく聞き、言われたことを実践できていた。 |
| 日本チームとしての課題 | 海外レース経験不足。海外レースに対して、どのような心構えで、どのように準備して臨むべきかが理解できていなかった。今回の大会中、選手に日々説明したことで、選手はかなり理解できたように思います。今後のレースで期待したいと思います。(アジア選手権の後の全日本で、何点か私の説明したことを実践できている選手が見られたのがうれしかったです。) コーチの反省としては、事前に上記のことについてももっと指導すべきであったと思います。(ただし、海外レースで実践してみないと分からないのかもしれませんが。) |
| JODAへの要望 | 特にありません。 いつもいつもOP選手たちのサポートをしていただき、ありがとうございます。 これからも今のスタイルを継続していただければと思います。 |

| | |
|-----|--|
| その他 | 日本チームは選手だけでなく、親も(監督・コーチ・サポーター)みんな仲が良かったです。また、全員が丸となって選手をサポートできたことが一番よかったと思います。次回、海外レースに参加することがあれば、今回のようなチームで行ければよいと思います。 |
|-----|--|

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会